



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「一分間の出会い③」

女性、否、女神は怖い。われらは最南端からトリヴァンドラム空港へ向かい、ムンバイに着いたのは午後11時を過ぎていた。そこから市内のホテルまで約45分。やれやれと思ひ部屋に入ろうとするとボーイが慌てだした。従兄の部屋が工事中であった。

「なんちゅうことだ！」

従兄が爆発した。別の部屋に案内されたが、極端に狭い部屋であった。

「なんちゅうこっちゃ！」

人は疲れると、イラっとする。すぐさまわが輩の部屋を提供した。一階のフロントで直談判。与えられた部屋はVIPルームであった。ベッド・ルームは隣室にあり、トイレは二ヶ所、会議なら20人は入れる広さである。

これは足だけでも清めたわが妻の恩寵か。妻は大喜びだが、明朝この部屋をみた従兄は言うだろう。

「なんちゅうこっちゃ！」

渡印前に従兄は何度も電話してきた。

「法華ホテルみたいなのはだめだぞ。汚いのはダメ」

ちなみに法華ホテルの名誉のために言えば、ラージギルでは最高のホテルである。日本式の風呂や日本食もある。

南インドのコヴァーラム・ビーチのホテルも最高級、すべてのホテルは5星である。それでもムンバイのようなことが起きる。「This is India!」と今でも言えるのがインドである。

アジャンター・エローラ石窟寺院の街アウランガーバードも5星である。それでも部屋に入る前に、従兄をロビーで待たせておき、部屋のチェックに向かった。眺めの良い部屋を従兄に与えた。

(今度は大丈夫。たぶん)

従兄が部屋に入った途端に、電気が消えて真っ暗。修理したが、また真っ暗。

「どう、なっとるだー！」

まったく、女神さまは悪戯がお好きなようだ。

アウランガーバードに着いたら元女学生に電話することになっていた。彼女がどのような活動をしているのか見たかったが、どうやら忙しいようだ。実は日本語学生たちの資格試験の時期が迫っていた。受験勉強か、わが輩の訪問か、学生が選択することになったが、圧倒的多数でわが輩を選んできた。(嬉々！)

教室は彼女の家の前の公民館であった。男女学生の12人が歓迎してくれた。われらもそれに応え

た。従兄は製菓会社の社長だから、たくさんのお菓子を日本から持参していた。

まずわが輩たちの自己紹介。それを彼女がマラティー語で通訳した。今度は学生たちの自己紹介が行われた。

学習の目的はさまざまである。日本人の友人がいるので、日本の会社で働きたい。家業が日本企業と取引しているので直接会話してみたい。日本の文化に興味がある等々である。だいたい20から30代の学生である。一人高齢の婦人がいる。

(夜間教室なので、過保護ママの付き添いか?)

実は彼女の息子がNTTに勤めている。現在息子はマレーシアで勤務しているが、再び日本勤務になる。その時のために日本語を学んでいる。

さて、われらが訪問したのも一つのサプライズだが、学生たちはもう一つサプライズを用意していた。もう、引き揚げようかと思っていたら、ケーキが運ばれてきた。

「ハッピーバースデー！ディア先生」

この日は元女学生の誕生日であった。

(まさに吉祥の日だね)

ケーキに一本のロウソクがたっていた。

(やけに太いな?)

インドは中年になると一本かと思っていたら、ロウソクから火が飛び出た。学生たちの歓声があがった。花火であった。なんと素晴らしい師弟の関係ではないか、読者諸氏よ。

従兄夫婦は世界中を観光旅行しているが、これほどの“偶然”を味会ったことはないだろう。この大魔王と旅をすれば、必ず“偶然”という感動がついてくる。なぜなら、わが輩は人との関係、ご縁を大事にしているからである。

“偶然”は時間のなかでおきる。それでは時間とは何か。二つに分ければ、私の時間と世界の時間である。私の時間には限りがある。その時々によって長く感じたり短く感じたりする。若いと長く思い、老いると短く思う。

世界の時間は刻々と進む。宇宙時計の針を止めることはできない。そもそも宇宙に時間があるのかも分からない。宇宙にあるのは息遣いだけかもしれない。

時間を刹那とみる考えもある。一瞬一瞬の繋がりである。時間を輪切りにしたものである。漬物のタクアンを輪切りにしても、タクアンはタクアンである。しかし、どうだろうか。それを盛る受け皿がなければタクアンはばらばらになってしまう。相続性がなくなってしまう。

タクアンは私の時間、受け皿は宇宙時間にあてはまる。どちらの時計を基準にして生きるか。確かなことは、宇宙時間の中に私の時間があるということである。輪切りのタクアンを「偶然」と考えるなら、受け皿は「必然」であろう。

今言えることは、われわれは二つの時間の「せめぎあいの概念」のもとで生きているのである。

読者諸氏よ、秘訣を教えよう。偶然の中に“必然”を探し出すことである。タクアンをゆっくりゆっくり噛みしめれば、必ず深い味が分かる。大事なこと、大事な人の味がわかる。今度試してみてよ。読者諸氏よ。